

氏 名：山 本 由 香
学 位 の 種 類：博士（看護学）
報 告 番 号：甲第120号
学 位 記 番 号：博第116号
学位授与年月日：令和6年3月13日
学位授与の要件：学位規則第4条第1項該当
論 文 題 目：首都圏で乳児を育てる母親に向けた震災への備え教育プログラムの開発と
ランダム化比較試験による効果検証
Development of an Educational Program on Earthquake Preparedness for Mothers With
Infants in the Metropolitan Area and Its Effectiveness in a Randomized Controlled Trial
論 文 審 査 員：主査 安 部 陽 子
副査 井 村 真 澄（正研究指導教員）
副査 本 庄 恵 子（副研究指導教員）
副査 岡 田 彩 子
副査 川 崎 洋 平

論文審査の結果の要旨

審査の概要

日本の首都圏は自然災害に対して脆弱な場所であり、突発型災害である大地震が起きた際には、甚大な被害が予測される。乳児の母親はとくに首都圏では一人で育児を担うことが多く、災害に対する脆弱性が高い一方で、日頃から大地震への備えが必要と認識していても行動には移せていない実態がある。本研究のテーマは、首都圏に住む乳児の母親を対象とした震災への備え教育プログラムの開発と効果検証である。このテーマは、看護学の発展に寄与すると同時に、首都直下地震への備えが求められる現在、社会への貢献度が高いテーマであると判断された。

申請者は、乳児を育てる母親と災害、健康行動に介入するためのモデル、災害への備えに関する教育、学びを促進するための方略に関して国内外の先行研究を検討している。その結果、首都圏の乳児の母親に対しては、ヘルスビリーフモデルに基づいた自己効力感を高める教育プログラムや、遠隔プログラムを用いたアクティブ・ラーニングが有効であること、そして、教育プログラムの開発方法としてはADDIEモデルが有用であることを明らかにした。また、乳児の母親や、首都圏の研究参加者を対象とした防災教育の研究は行われていないことを明らかにした。このことから、本研究は、防災教育プログラムの内容・方法、研究対象者の観点で、新規性が高い。

研究目的が防災教育プログラムという介入の効果検証であることから、研究方法にはランダム化比較試験が用いられた。ヘルスビリーフモデルに基づいた教育プログラムがADDIEモデルの手順に沿って開発された。研究参加者の条件、数、割り付け方法は事前に明確に設定され、研究参加者の知識、認識、行動が、介入前、介入直後、介入1週間後、介入4週間後に測定された。さらに、研究参加者より収集した4時点のデータは、反復測定分散分析により分析されていた。研究は本学の研究倫理審査委員会の承認後に実施され、研究への任意参加やその他の倫理的配慮が行われている。

研究結果には、各群の研究参加者の流れがフローチャートにより示され、分析された研究参加者数、各群の4時点の知識、認識、行動の点数、反復測定分散分析の結果が明示されていた。プログラム介入により、介入群に有意な行動得点の上昇が確認された。

考察には、ランダム化比較試験において報告が推奨されている、研究結果の解釈、可能性のあるバイアス（研究実施期間中の地震発生や関東大震災100周年の報道）、精度低下の原因（尺度の信頼性・妥当性）、一般化可能性が議論されている。本教育プログラムの介入群の行動が有意に上昇していることから、本研究は、首都圏の乳幼児を育てる母親に対する新たな質の高い震災への備え教育プログラムの知見を提供するものであると高く評価された。

そして、論文作成における文章の明瞭性等も十分なものであった。

審査の結果、本論文は本学の審査基準を満たしていると判断し、博士（看護学）の学位論文として「合格」と判定した。